



---

# JFT/WebEDI-Command マニュアル

第 11.1\_SaaS 版  
2024/11/13

株式会社 TOKAI コミュニケーションズ

---

## 目次

---

1. はじめに.....	4
2. 機能概要 .....	5
3. システム要件 .....	6
3.1. 対応プラットフォーム.....	6
3.2. ハードウェア要件.....	6
3.3. ソフトウェア要件.....	6
3.4. その他の要件.....	6
4. インストール(WINDOWS) .....	7
4.1. インストールをする前に.....	7
4.2. インストール.....	7
4.3. インストールの確認.....	11
5. インストール(LINUX) .....	12
5.1. インストールをする前に.....	12
5.2. 事前準備 .....	12
5.3. インストール.....	13
5.4. インストールの確認.....	16
6. アンインストール.....	17
6.1. アンインストール(WINDOWS) .....	17
6.2. アンインストール(LINUX) .....	18
7. JFTWEBEDIUPLOAD .....	19
8. JFTWEBEDIDOWNLOAD .....	21
9. 全般的な設定.....	23
10. 証明書反映手順 .....	26
10.1. 証明書をインポートする .....	26

## 変更履歴

版	年月日	変更	変更内容
7.2	2011/12/22		初版発行
7.2_01	2012/11/05		インストール後の注意事項を追記 NTLM 認証を使用する場合の設定を追記
7.2_02	2012/12/21		JftWebEDIDownload コマンドでファイルが存在した場合の動作を追記
7.2_03	2014/04/30		対応プラットフォームの変更
7.2_04	2015/12/22		対応プラットフォームの変更
8.0	2014/10/10		対応プラットフォームの変更
9.0	2018/06/29		対応プラットフォームの変更 インストール環境の構成を変更 NTLM 認証に関する記載を削除
10.0	2019/12/27		対応プラットフォームの変更
10.1	2020/12/01		対応プラットフォームの変更
10.2	2021/03/01		10.2 版用マニュアル修正
10.2	2021/10/01		10.3 版用マニュアル修正
11.0	2022/11/30		11.0 版用マニュアル修正
11.1	2024/01/31		11.1 版用マニュアル修正
11.1_SaaS	2024/11/13		JFT/SaaS 版用に修正

# 1. はじめに

JFT/WebEDI-Command は、ファイル転送型 WebEDI を行うためにクライアント側にインストールするアプリケーションです。Web ブラウザを使用せずにクライアントアプリケーションから直接 JFT/Server が稼働する Web サーバへ接続し、ファイルのアップロードとダウンロードを行うことができます。

## (1) アップロード

クライアント側からサーバ側へファイルをアップロード(配信)します。

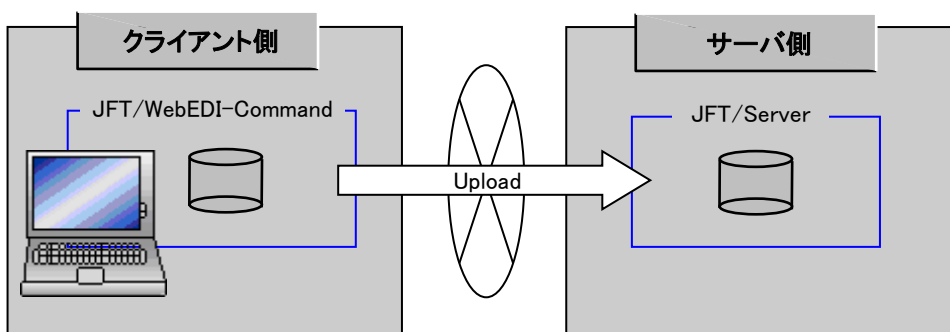


図 1-1 ファイルのアップロード

## (2) ダウンロード

サーバ側にあるファイルをクライアント側へダウンロード(集信)します。

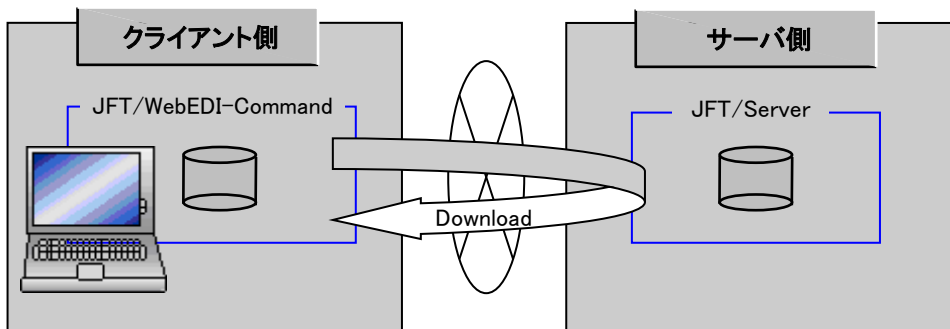


図 1-2 ファイルのダウンロード

## 2. 機能概要

JFT/WebEDI-Command でサポートしている機能は以下となります。

表 2-1 JFT/WebEDI-Commandの機能

NO	カテゴリ	機能	サポート	備考
1	アクセス	ユーザインタフェース	アプリケーション (※最小はコマンド)	
2	性能	ファイルサイズ	上限なし(※1)	
3	起動方向	クライアント	○	
4	プロトコル	HTTP	○	
5		HTTPS	○	
6	データ加工	ファイル圧縮	×	
7	抑止	間欠転送	×	
8		二重送受信制御	×	
9		再ダウンロード	×	
10	システム	ログイン	○	ログイン認証
11		一覧照会	×	
12		エラー照会	×	
13	その他	複数ファイルアップロード	×	
14		複数ファイルダウンロード	×	

※ ○:サポート、×:非サポート

(※1) プロキシ利用時のみ上限なし。プロキシを利用しない場合はインストール環境に依存。

### 3. システム要件

---

JFT/WebEDI-Command は以下の環境下で稼動します。

#### 3.1. 対応プラットフォーム

- Windows(64 bit) 10 / 11 / 2016 / 2019 / 2022
- Red Hat Enterprise Linux(64 bit) 6.X / 7.X / 8.X

※現行バージョンは、Itanium搭載マシンはサポートされていません。

#### 3.2. ハードウェア要件

[マシンスペック]

項目	最低	推奨
CPU	800MHz 以上	1.0GHz 以上
メモリ	512MB 以上	1.0GB 以上
空きハードディスク	200MB 以上	500MB 以上

注) 空きハードディスクはインストール時の値です。

注) 転送するファイル、追加する管理情報は含まれません。

#### 注意

- 実際に必要とされる CPU、メモリ、ハードディスクは、単位時間当たりの通信量やファイルの保存日数によって異なります。
- SSLv3, TLSv1, TLSv1.1 はデフォルトで無効になっています。有効にする場合はインストールディレクトリ/jre/conf/security/java.security ファイル中の `jdk.tls.disabledAlgorithms` プロパティから、対象プロトコルを削除して下さい。

#### 3.3. ソフトウェア要件

JFT/WebEDI-Command のインストール時、および、稼動時に必要となるその他ソフトウェアは特にありません。

#### 3.4. その他の要件

- HTTP 通信を行う場合には、Well-known ポート番号として80 を使用する場合があります。
- HTTPS 通信を行う場合には、Well-known ポート番号として443 を使用する場合があります。

## 4. インストール(Windows)

Windows環境でのJFT/WebEDI-Commandのインストールの手順について説明します。JFT/WebEDI-Commandのインストーラの指示に沿って操作することにより、スムーズに作業を進めることができます。

### 4.1. インストールをする前に

弊社が定めたパッケージソフトウェア使用許諾書に同意し、お使い頂くようお願い致します。

### 4.2. インストール

ここでは、例としてインストールフォルダを C:\JFTWebEDI として説明します。

#### (1) インストーラを実行します。

install-jft-web-1110.exe をダブルクリックしてインストーラを起動します。

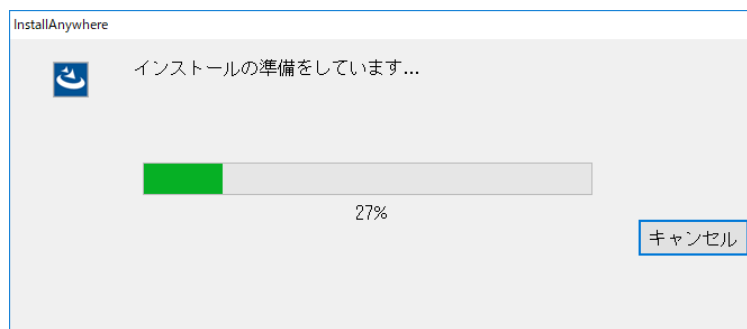


図 4.2-1 インストーラの起動画面

#### (2) 開始画面で「次へ」ボタンを押します。

開始画面が表示されますので、インストーラの操作方法を確認して「次へ」ボタンを押して下さい。

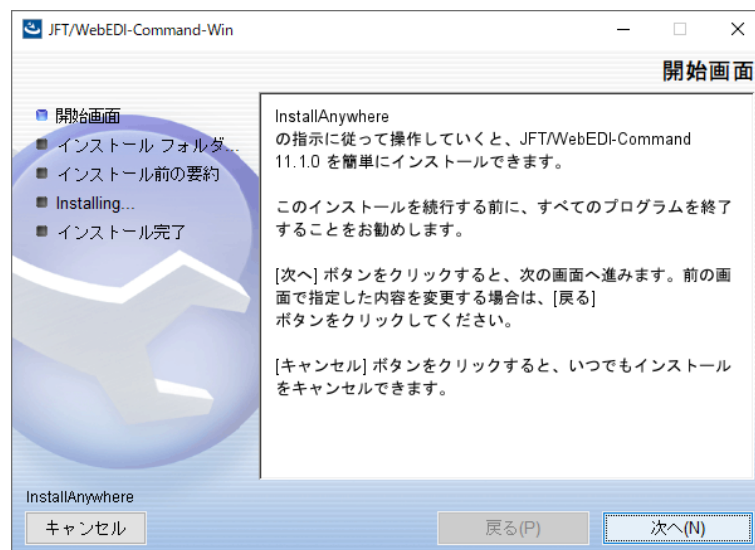


図 4.2-2 開始画面

(3) インストールフォルダの選択でインストール場所を指定し、「次へ」ボタンを押します。

JFT/WebEDI-Commandのインストールフォルダ選択画面が表示されます。デフォルトでは「C:\JFTWebEDI」が設定表示されています。選択したディレクトリが存在しない場合には自動的にフォルダが生成され、その配下にインストールされます。

インストールフォルダを変更する場合は、直接インストール先を入力するか、「選択」ボタンを押してインストール先を選択して下さい。

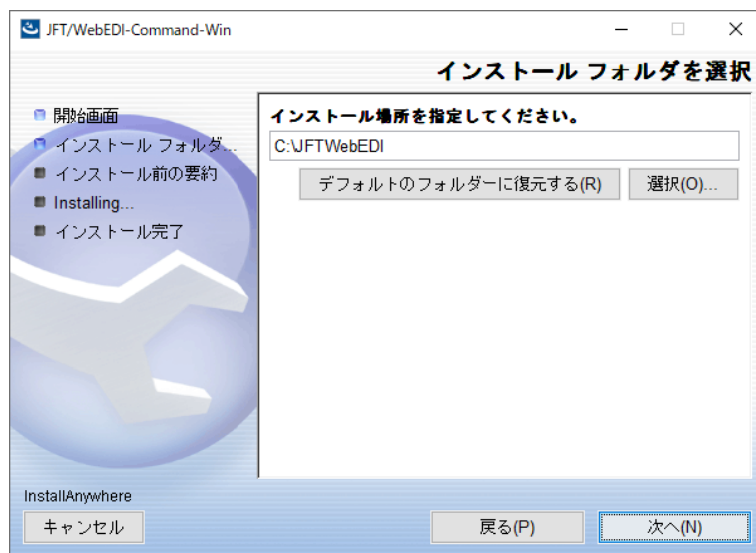


図 4.2-3 インストールフォルダの選択

(4) インストール前の要約で設定内容を確認し、「インストール」ボタンを押します。

設定した内容が表示されます。このままで良ければ「インストール」ボタンを押してインストール処理を開始します。設定変更内容を修正・変更する場合は「戻る」ボタンを押し、目的の画面まで戻って修正して下さい。



図 4.2-4 インストール前の要約画面

- (5) インストール処理が行われます。  
アーカイブの展開が行われます。



図 4.2-5 インストール中

- (6) インストール処理が完了したら、「次へ」ボタンを押します。  
約1分でインストール処理が完了します。「次へ」ボタンを押します。

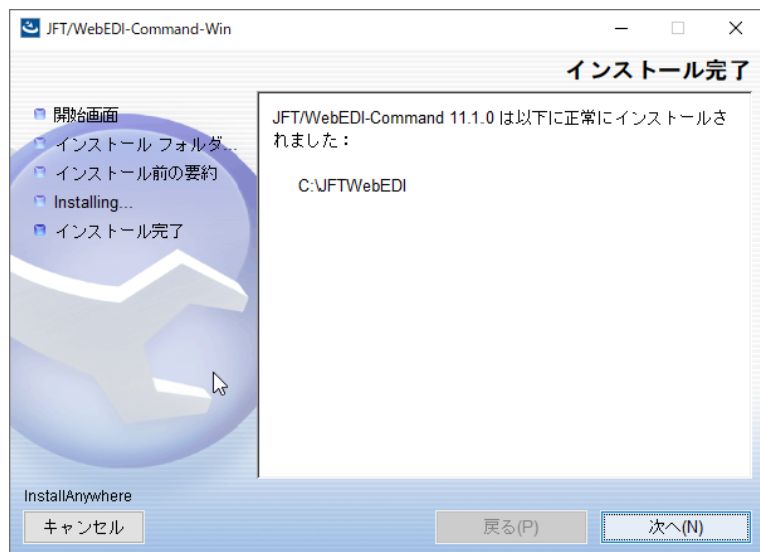


図 4.2-6 インストール完了

- (7) インストールが完了しました。「完了」ボタンを押してインストーラを終了します。  
インストールされた場所が正しいことを確認し、「完了」ボタンを押してインストーラを終了してください。



図 4.2-7 インストーラの終了

**注意**

- インストール後に環境変数 PATH に追加されるコマンドのパスはシステム再起動後に有効になります。

### 4.3. インストールの確認

JFT/WebEDI-Command が正常にインストールされた際のフォルダ構成は以下となります。

<インストールフォルダ> + bin - JftWebEDIDownload.exe - JftWebEDIDownload.lax - JftWebEDIUpload.exe - JftWebEDIUpload.lax - lax.jar - log4j.xml - webedi.properties + jre + lib + UninstallerData - pkginfo	WebEDI 通信の設定ファイルが格納されているフォルダです。 ダウンロードを行うためのコマンドです。 JftWebEDIDownload.exe コマンドの設定ファイルです。 アップロードを行うためのコマンドです。 JftWebEDIUpload.exe コマンドの設定ファイルです。 コマンドのライブラリです。 ログ出力の設定ファイルです。 WebEDI の設定ファイルです。 JFT/WebEDI-Command の実行に必要な Java 環境です。 JFT/WebEDI-Command のライブラリが格納されているフォルダです。 アンインストーラが格納されているフォルダです。 パッケージ情報が記述されたファイルです。
--	---

図 4.3-1 インストール環境

インストールされるコマンドは、以下になります。

表 4.3-1 コマンド一覧

NO	コマンド名	説明
1	JftWebEDIUpload.exe	WebEDI Upload を行うためのコマンドです。
2	JftWebEDIDownload.exe	WebEDI Download を行うためのコマンドです。

JFT/WebEDI-Command が正常にインストールされた際の環境変数は以下となります。

PATH=%PATH%;<JFT/WebEDI-Command のインストールフォルダ>%bin
--

図 4.3-2 環境変数

## 5. インストール(Linux)

---

Linux環境でのJFT/WebEDI-Commandのインストールの手順について説明します。JFT/WebEDI-Commandのインストーラの指示に沿って操作することにより、スムーズに作業を進めることができます。

### 5.1. インストールをする前に

弊社が定めたパッケージソフトウェア使用許諾書に同意し、お使い頂くようお願い致します。

### 5.2. 事前準備

JFT/WebEDI-Commandをインストールするにあたって、インストールマシンに対してあらかじめインストール/セットアップしておく必要のある環境について説明します。

#### (1) インストールに必要な情報

インストール前に以下の情報を確認してください。

表 5.2-1 インストールに必要な情報

NO	情報	値	備考
1	マシンの IP アドレス		Telnet で接続するため
2	マシンのログイン ID		JftWebEDI ユーザ
3	マシンのログイン ID のパスワード		JftWebEDI ユーザ

#### (2) ユーザ登録

Linux プラットフォームの場合、JFT/WebEDI-Commandを稼働させるユーザでインストールを行ってください。JFT/WebEDI-Command稼働時の各種プロセスのOwner はこのユーザになります。

※ ユーザシェルは bash を指定して下さい。

### 5.3. インストール

ここでは、例としてインストールフォルダを/home/jftWebEdi として説明します。

- (1) インストーラを実行します。

```
$ cd /home/jftWebEdi
$ ./ijl110w.bin
```

図 5.3-1 インストーラの起動

ターミナルからコマンド入力によりインストーラを実行して下さい。

- (2) インストールが開始されます。

```
$. /ijl11Preparing to install...
Extracting the JRE from the installer archive...
Unpacking the JRE...
Extracting the installation resources from the installer archive...
Configuring the installer for this system's environment...

Launching installer...

Preparing CONSOLE Mode Installation...
```

図 5.3-2 インストールの開始

- (3) 言語を選択します。

```
ロケールを選択...
-----
    1- English
   ->2- 日本語

CHOOSE LOCALE BY NUMBER:
```

図 5.3-3 言語の選択

言語選択画面が表示されます。インストール画面表示用の言語を選択して下さい。〈Enter〉を押すことによりインストール準備作業が行われます。

(4) 開始画面で<Enter>キーを押します。

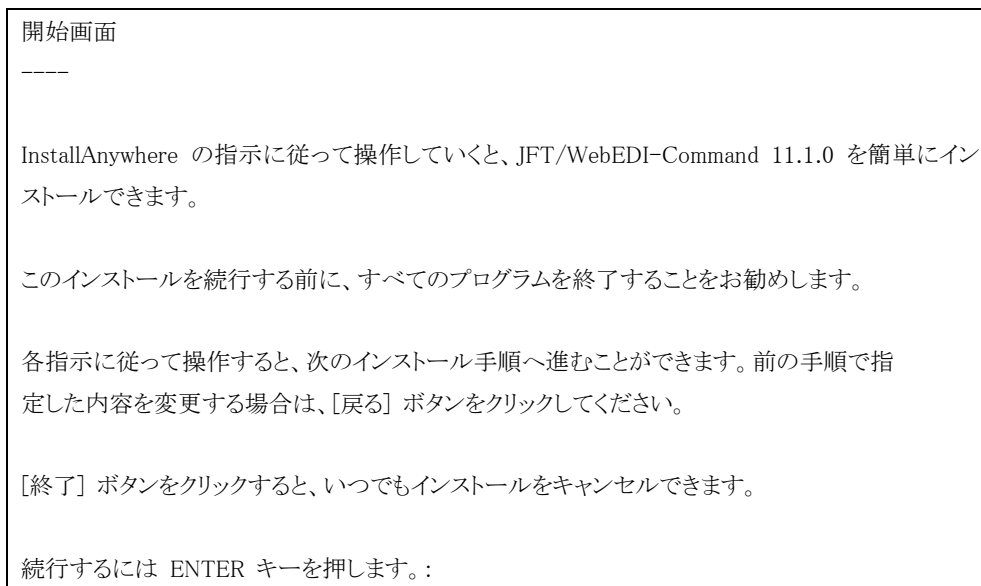


図 5.3-4 開始画面

開始画面が表示されますので、インストーラの操作方法を確認して<Enter>キーを押して下さい。

(5) インストールフォルダの選択でインストール場所を指定し、<Enter>キーを押します。

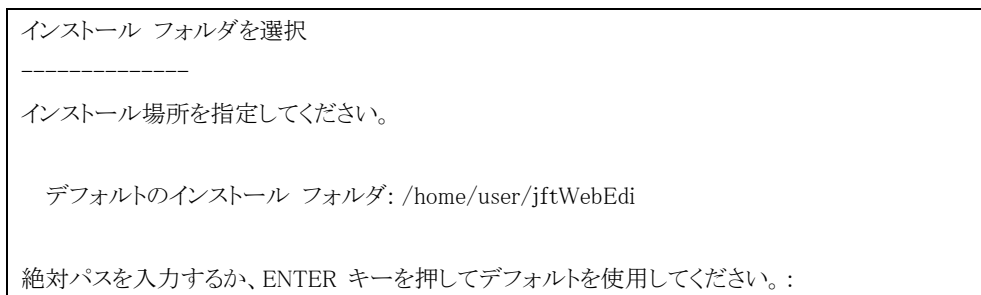


図 5.3-5 インストールフォルダの選択

JFT/WebEDI-Command のインストールフォルダの選択画面が表示されます。デフォルトでは/home/実行ユーザホームディレクトリ/jftWebEdi が設定表示されています。選択したフォルダが存在しない場合には自動的にフォルダが生成され、その配下にインストールされます。

インストールフォルダを変更する場合は、直接インストール先を入力して下さい。

(6) インストール前の要約で設定内容を確認し、<Enter>キーを押します。

```

インストール前の要約
-----
操作を続ける前に、以下の内容を確認してください。

製品名:
    JFT/WebEDI-Command 11.1.0
インストール フォルダー:
    /home/jftWebEdi
Java VM のインストール・フォルダー:
    /home/jftWebEdi/jre
ディスクスペース情報 (インストール先):
    必要なディスクスペース: 92,016,483 バイト
    使用可能なディスクスペース: 8,263,745,536 バイト

続行するには ENTER キーを押します。:

```

図 5.3-6 インストール前の要約画面

設定した内容が表示されます。このままで良ければ<Enter>キーを押してインストール処理を開始します。

(7) インストール処理が行われます。

```

インストール中...
-----

[=====|=====|=====|=====]
[-----|-----|-----|-----]
$

```

図 5.3-7 インストール処理

アーカイブが展開され、インストールが完了します。

## 5.4. インストールの確認

JFT/WebEDI-Command が正常にインストールされた際のディレクトリ構成は以下となります。

<インストールフォルダ> + bin - JftWebEDIDownload - JftWebEDIDownload.lax - JftWebEDIUpload - JftWebEDIUpload.lax - lax.jar - log4j.xml - webedi.properties + jre + lib + UninstallerData - pkginfo	WebEDI 通信の設定ファイルが格納されているディレクトリです。 ダウンロードを行うためのコマンドです。 JftWebEDIDownload コマンドの設定ファイルです。 アップロードを行うためのコマンドです。 JftWebEDIUpload コマンドの設定ファイルです。 コマンドのライブラリです。 ログ出力の設定ファイルです。 WebEDI の設定ファイルです。 JFT/WebEDI-Command の実行に必要な Java 環境です。 JFT/WebEDI-Command のライブラリが格納されているディレクトリです。 アンインストーラが格納されているディレクトリです。 パッケージ情報が記述されたファイルです。
--	---

図 5.4-1 インストール環境

インストールされるコマンドは、以下となります。

表 5.4-1 コマンド一覧

NO	コマンド名	説明
1	JftWebEDIUpload	WebEDI Upload を行うためのコマンドです。
2	JftWebEDIDownload	WebEDI Download を行うためのコマンドです。

JFT/WebEDI-Command が正常にインストールされた際の環境変数は以下となります。

PATH=\$PATH:<JFT/WebEDI-Command のインストールフォルダ>/bin
--

図 5.4-2 環境変数

## 6. アンインストール

### 6.1. アンインストール (Windows)

JFT/WebEDI-Command のアンインストールは、プログラムの追加と削除から行います。

スタートメニューより[設定]-[アプリ]を選択、アプリと機能画面を表示します。(Windows2012R2 の場合は[コントロールパネル]-[プログラムと機能]を選択し、プログラムと機能画面を表示します)

「アンインストール」ボタン押下でアンインストーラが起動します。



図 6.1-1 アンインストーラ

「アンインストール」ボタンを押すことで、アンインストールを開始します。アンインストールが完了したら「完了」ボタンを押します。



図 6.1-2 アンインストール完了

以上でアンインストールは完了です。アンインストールではアップロードやダウンロードを行ったファイルなどは削除されません。

**注意**

- インストール後に環境変数 PATH に追加されたコマンドのパスはシステム再起動後に削除されます。

## 6.2. アンインストール (Linux)

JFT/WebEDI-Command のアンインストールは、JFT/WebEDI-Command インストールフォルダ/UninstallerData/UninstallJFTWebEDICommand を実行します。

(1) UninstallJFTWebEDICommand を実行します。

```
$ cd UninstallerData
$ ./UninstallJFTWebEDICommand
```

図 6.2-1 アンインストーラの実行

(2) JFT/WebEDI-Command のアンインストール

```
Preparing CONSOLE Mode Uninstallation...

=====
JFT/WebEDI-Command 11.1.0                      (created with InstallAnywhere)
=====

アンインストール中...

-----

...*
*
*****
*****
*****
*****
<省略>
*****
```

図 6.2-2 JFT/WebEDI-Commandアンインストール

以上でアンインストールは完了です。アンインストールではアップロードやダウンロードを行ったファイルなどは削除されません。

## 7. JftWebEDIUpload

---

JftWebEDIUpload はファイルのアップロードを行うコマンドです。

### [機能]

アップロードコマンドは、クライアントマシンにあるファイルを、WebEDI を使用して通信相手先へ送信するためのコマンドです。

### [コマンドライン]

```
JftWebEDIUpload 物理ファイルパス名 運用ファイル ID  
                [-url Web サービスの URL] [-userid ログインユーザ名] [-password ログインパスワード]  
                [-timeout タイムアウト時間] [-config WebEDI 設定ファイル] [-delete]
```

### [引数説明]

#### ○物理ファイルパス名 <必須>

アップロードするファイルのファイル名を指定します(フルパス、または実行ディレクトリからの相対パス)。

#### ○運用ファイル ID

JFT 管理上の運用ファイル ID をファイル識別として指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの Upload.FileId の値が使用されます。

#### ○-url Web サービスの URL

通信相手先の WebEDI サービスの URL を指定します。指定は以下のような形式で行います。

フォーマット: プロトコル://FQDN:ポート番号/Web サービス名/services/WebEDIService

例: https://edi.tokai-com.co.jp:8443/edijft/services/WebEDIService

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.Service の値が使用されます。

#### ○-userid ログインユーザ名

通信相手先の WebEDI へアクセスするためのユーザ ID を指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.UserId の値が使用されます。

#### ○-password ログインパスワード

通信相手先の WebEDI へアクセスするためのパスワードを指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.Password の値が使用されます。

#### ○-timeout タイムアウト時間(秒)

タイムアウト時間を指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.Timeout の値が使用されます。

#### ○-config WebEDI 設定ファイル

WebEDI 設定ファイルのファイル名を指定します(フルパス、または実行ディレクトリからの相対パス)。

指定されなかった場合は、コマンドと同一ディレクトリにある webedi.properties ファイルが使用されます。

#### ○-delete

アップロードが正常完了した後に、アップロードしたファイルを削除する場合に指定します。

[コマンド戻り値]

コマンド戻り値の詳細は以下となっています。

表 7-1 アップロードコマンド戻り値

No.	戻り値(Windows)	戻り値(Linux)	説明
1	0	0	正常終了
2	-1	255	パラメータエラー
3	-2	254	接続に失敗しました。
4	-3	253	ログインに失敗しました。
5	-4	252	アップロード中にネットワークエラーが発生しました。
6	-5	251	不正な物理ファイルパスが指定されました。
7	-6	250	不正な運用ファイル ID が指定されました。
8	-7	249	物理ファイルパスへアクセスできませんでした。
9	-8	248	物理ファイルパスの削除に失敗しました。

[その他注意事項]

コマンドの標準出力、標準エラー出力はコンソールに出力されます。

“JftWebEDIUpload -help” を実行することにより、コマンドの使用方法を確認することができます。

## 8. JftWebEDIDownload

---

JftWebEDIDownload はファイルのダウンロードを行うコマンドです。

### [機能]

ダウンロードコマンドは、WebEDI を使用して通信相手先からファイルを受信するためのコマンドです。

### [コマンドライン]

```
JftWebEDIDownload 運用ファイル ID 物理ファイルパス名  
                    [-url Web サービスの URL] [-userid ログインユーザ名] [-password ログインパスワード]  
                    [-timeout タイムアウト時間] [-config WebEDI 設定ファイル] [-saveunyooid]
```

### [引数説明]

#### ○運用ファイル ID

JFT 管理上の運用ファイル ID をファイル識別として指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの Download.FileId の値が使用されます。

#### ○物理ファイルパス名

ダウンロードしたファイルの保存先を指定します(フルパス、または実行ディレクトリからの相対パス)。

指定された物理ファイルパス名がディレクトリであった場合、ダウンロード格納フォルダとみなされ、ダウンロード格納フォルダ配下にファイルを保存します。指定されたファイルが既に存在した場合、ダウンロード後に上書きされます。指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの Download.Dir がダウンロード格納フォルダとみなされます。

#### ○-url Web サービスの URL

通信相手先の WebEDI サービスの URL を指定します。指定は以下のような形式で行います。

フォーマット: プロトコル://FQDN:ポート番号/Web サービス名/services/WebEDIService

例: https://edi.tokai-com.co.jp:8443/edijft/services/WebEDIService

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.Service の値が使用されます。

#### ○-userid ログインユーザ名

通信相手先の WebEDI へアクセスするためのユーザ ID を指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.UserId の値が使用されます。

#### ○-password ログインパスワード

通信相手先の WebEDI へアクセスするためのパスワードを指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.Password の値が使用されます。

#### ○-timeout タイムアウト時間(秒)

タイムアウト時間を指定します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの jft.web.Timeout の値が使用されます。

#### ○-config WebEDI 設定ファイル

WebEDI 設定ファイルのファイル名を指定します(フルパス、または実行ディレクトリからの相対パス)。

指定されなかった場合は、コマンドと同一ディレクトリにある webedi.properties ファイルが使用されます。

#### ○-saveunyooid

ダウンロードしたファイルのファイル名を JFT 管理上の運用ファイル ID で保存します。

指定されなかった場合は WebEDI 設定ファイルの Download.SaveUnyoId の値が使用されます。

表 8-1 ダウンロードコマンド戻り値

No.	戻り値(Windows)	戻り値(Linux)	説明
1	0	0	正常終了
2	1	1	ファイルなし
3	2	2	正常終了(継続ファイルあり)
4	-1	255	パラメータエラー
5	-2	254	接続に失敗しました。
6	-3	253	ログインに失敗しました。
7	-4	252	ダウンロード中にネットワークエラーが発生しました。
8	-5	251	不正な物理ファイルパスが指定されました。
9	-6	250	不正な運用ファイル ID が指定されました。
10	-7	249	保存先にアクセスできませんでした。
11	-8	248	ファイルの保存に失敗しました。

JftWebEDIDownload コマンドでダウンロードされるファイルのファイル名は、以下となります。

- (1) 物理ファイルパスにファイル名を指定した場合、そのファイル名で保存します。
- (2) 物理ファイルパスにフォルダを指定し、-saveunvoid を指定した場合、JFT 管理上の運用ファイル ID をファイル名として保存します。
- (3) 物理ファイルパスにフォルダを指定し、-saveunvoid を指定しない場合、通信相手先で設定されているファイル名で保存します。
- (4) 上記のいずれにも該当しない場合、運用ファイル ID か通信相手先で設定されているファイル名のいずれかを解決してファイル名として保存します。

JftWebEDIDownload コマンドの戻り値が-8 のときは、通信相手先側ではダウンロードが完了したものと認識されます。保存に失敗したファイルを再度ダウンロードしたい場合は通信相手先側に確認をしてください。

#### [その他注意事項]

コマンドの標準出力、標準エラー出力はコンソールに出力されます。

“JftWebEDIDownload -help” を実行することにより、コマンドの使用方法を確認することができます。

## 9. 全般的な設定

WebEDI-Command の全般的な設定は WebEDI 設定ファイルで設定することができます。  
設定ファイルで設定された項目は、コマンド実行時に引数を省略することができます。

表 9-1 WebEDI設定ファイル

NO	設定項目	Upload コマンドで使用	Download コマンドで使用	SSL で使用
1	Upload.FileId	○	-	
2	Download.FileId	-	○	
3	Download.Dir	-	○	
4	Download.SaveUnyold	-	○	
5	jft.web.Service	○	○	
6	jft.web.UserId	○	○	
7	jft.web.Password	○	○	
8	jft.web.Timeout	○	○	
9	jft.web.ProxyHost	○	○	
10	jft.web.ProxyPort	○	○	
11	jft.web.ProxyUser	○	○	
12	jft.web.ProxyPassword	○	○	
13	jft.https.Protocols	○	○	○
14	jft.https.Suites	○	○	○

### [項目説明]

#### ○Upload.FileId

アップロードするファイルの JFT 管理上の運用ファイル ID をファイル識別として指定します。  
運用ファイル ID は接続先と合わせる必要がありますので、接続先に確認をしてください。

#### ○Download.FileId

ダウンロードするファイルの JFT 管理上の運用ファイル ID をファイル識別として指定します。  
運用ファイル ID は接続先と合わせる必要がありますので、接続先に確認をしてください。

#### ○Download.Dir

ダウンロードしたファイルの保存先を指定します(フルパス、または実行ディレクトリからの相対パス)。  
指定された物理ファイルパス名がディレクトリであった場合、ダウンロード格納フォルダとみなされ、ダウンロード格納フォルダ配下にファイルを保存します。指定されたファイルが既に存在した場合、上書きされます。

#### ○Download.SaveUnyold

ダウンロードしたファイルのファイル名を JFT 管理上の運用ファイル ID で保存するかを指定します。  
JFT 管理上の運用ファイル ID をファイル名にして保存する場合は"true"を指定し、運用ファイル ID をファイル名として保存しない場合は"false"を指定します。

#### ○jft.web.Service

接続先の WebEDI サービスの URL を指定します。指定は以下のような形式で行います。

フォーマット: プロトコル://FQDN:ポート番号/Web サービス名/services/WebEDIService

例: https://edi.tokai-com.co.jp:8443/edijft/services/WebEDIService

指定する URL は接続先に確認してください。

○jft.web.UserId

通信相手先の WebEDI へアクセスするためのユーザ ID を指定します。  
ユーザ ID は通信相手先側で決められていますので、接続先へ確認してください。

○jft.web.Password

通信相手先の WebEDI へアクセスするためのパスワードを指定します。  
パスワードは通信相手先側で決められていますので、接続先へ確認してください。

○jft.web.Timeout

タイムアウト時間を秒単位で指定します。  
デフォルトで 300 秒が設定されています。

○jft.web.ProxyHost

通信をするときに使用するプロキシのホスト名を指定します。

○jft.web.ProxyPort

通信をするときに使用するプロキシのポート番号を指定します。

○jft.web.ProxyUser

通信をするときに使用するプロキシへアクセスするためのユーザ ID を指定します。

○jft.web.ProxyPassword

通信をするときに使用するプロキシへアクセスするためのパスワードを指定します。

○jft.https.Protocols

※通信先が「https」で始まる SSL 通信の場合のみ指定可能です。  
SSL 通信で使用するプロトコルを指定します。「SSLv3」「TLSv1」「TLSv1.1」「TLSv1.2」「TLSv1.3」のいずれかを指定できます(※TLSv1.1 以下を使用する場合、「java.security」ファイルの修正が必要です)。  
指定しない場合、相手先との通信で指定可能なプロトコルが自動的に選択されます。

○jft.https.Suites

※通信先が「https」で始まる SSL 通信の場合のみ指定可能です。  
SSL 通信で使用する暗号化スイートを指定します。  
指定しない場合、相手先との通信で選択されたプロトコルに対応した暗号化スイートが自動的に選択されます。(暗号化スイートの詳細については Oracle 社のドキュメント「JSSE Cipher Suite Names」をご確認ください。)

## 設定ファイルの例

```
Upload.FileId=Upload001
Download.FileId=Download002
Download.Dir=.
Download.SaveUnyoId=false
jft.web.Service=https://edi.tokai-com.co.jp:8443/edijft/services/WebEDIService
jft.web.UserId=webuserid
jft.web.Password=webpwd
jft.web.Timeout=300
jft.web.ProxyHost=prxy.tokai-com.co.jp
jft.web.ProxyPort=1234
jft.web.ProxyUser=pxuserid
jft.web.ProxyPassword=pxpwd
```

**[その他注意事項]**

WebEDI 設定ファイルは、コマンドの実行時に `-config` オプションで指定できます。

`-config` オプションを指定しない場合は、インストールフォルダの `bin` フォルダにある `webedi.properties` が WebEDI 設定ファイルとして適用されます。

## 10. 証明書反映手順

---

本機能は JFT/WebEDI-Command で証明書を用了 Web-EDI 通信を行うために必要な証明書の反映手順について説明します。

本手順は JFT/WebEDI-Command で使用するキーストアに登録されていない証明書を利用する場合に必要になります。

本手順が必要かどうかは Web-EDI 通信を提供するサーバ側のシステム管理者に問い合わせてください。

### 10.1. 証明書をインポートする

事前に JFT/Server 側のシステム管理者より証明書を配布してもらい、任意のフォルダに保存してください。

例:C:\JFTWebEDI\cert.cer

コマンドプロンプト等を開き下のコマンドを実行してください。

```
[JFT/WebEDI-Command のインストールフォルダ]¥jre¥bin¥keytool -import -file <受け取った証明書のパス> -trustcacerts -cacerts
```

## コマンド実行例

```

C:\>C:\JFTWebEDI\jre\bin\keytool -import -file C:\JFTWebEDI\cert.cer -trustcacerts -cacerts
キーストアのパスワードを入力してください: ①
所有者: CN=XX-XX-XX-XX00
発行者: CN=XX-XX-XX-XX00
シリアル番号: xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
有効期間の開始日: Fri Dec 12 00:00:00 JST 2020 終了日: Fri Dec 12 23:59:59 JST 2030
証明書のフィンガプリント:
    MD5: XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    SHA1: XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    SHA256: XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
署名アルゴリズム名: SHA256withRSA
サブジェクト公開鍵アルゴリズム: 1024 ビット RSA 鍵
バージョン: 3

拡張:
#1: ObjectId: 00.00.00.00 Criticality=false
ExtendedKeyUsages [
    serverAuth
]
#2: ObjectId: 00.00.00.00 Criticality=false
KeyUsage [
    DigitalSignature
    Key_Encipherment
    Data_Encipherment
]
この証明書を信頼しますか。[いいえ]: はい

```

- ① キーストアのパスワードには"changeit"と入力します。
- ② 「この証明書を信頼しますか?」の質問には"はい"と入力します。
- ※ キーストアは、"[JFT/WebEDI-Command のインストールフォルダ]\jre\lib\security\cacerts" で、パスワードは、"changeit"です。

以上で証明書反映の手順は完了です。



Copyright (c) 1999-2023 TOKAI Communications Corporation All rights Reserved.

本書およびその中に記載されているソフトウェアはライセンスの所有者に対してのみ供給され、同ライセンスの許可する条件のもとでのみ使用または複製することが許されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。本書中の技術的あるいは校正上の誤りや不正確な記述に対して、また本書の適用の結果生じた間接損害を含めいかなる責任、債務は負いかねますのでご了承下さい。

JFT は株式会社 TOKAI コミュニケーションズの登録商標です。JFT は株式会社 TOKAI コミュニケーションズの著作物であり、JFT にかかる著作権、その他の権利は株式会社 TOKAI コミュニケーションズおよび各権利者に帰属します。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標、または登録商標です。